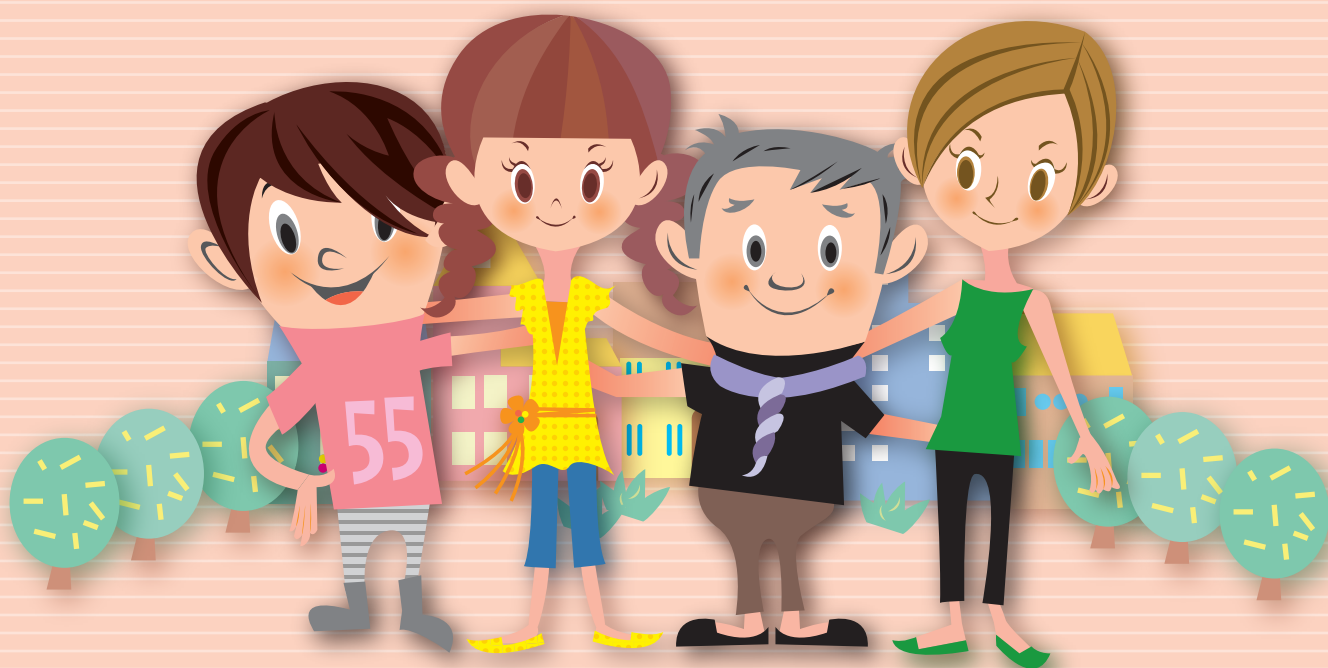


日進市の男女平等に関する市民意識調査結果

〈ダイジェスト版〉



調査の目的

日進市では、家庭・地域・職場など、あらゆる分野で男性も女性も自分の意志で参画し、共に支え合い、認め合い、喜びも責任も分かち合える男女平等な社会を実現するための取組みを進めています。

本調査は、市民の男女平等意識の現状を調査し、日進市男女平等推進プラン見直しのための基礎資料を得ることで、今後の施策に反映させることを目的として実施しました。

調査対象

市内在住の20歳以上の男女2,000人（住民基本台帳による層化無作為抽出）

調査期間

平成21年6月～7月（郵送配布、郵送回収）

回収状況

1,011通（回収率50.6%）

※集計結果の%表示は、小数点以下第2位を四捨五入してありますので、内訳の合計がちょうど100.0%にならない場合があります。

社会における男女の平等感について

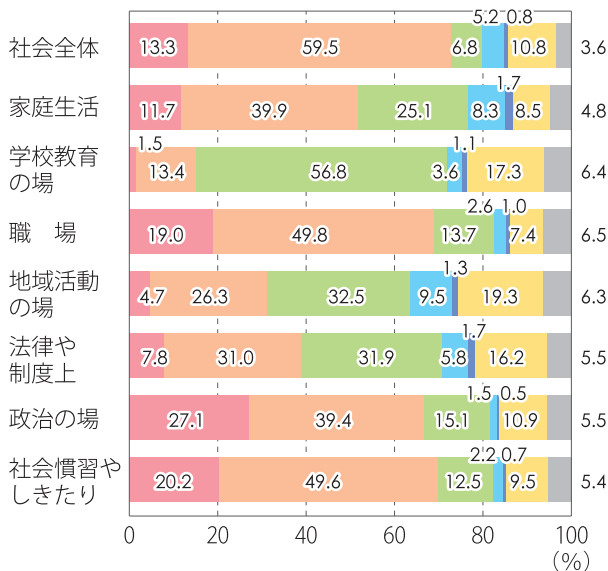
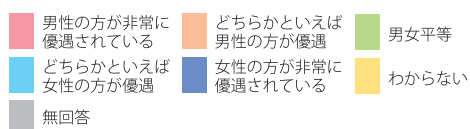
「職場」「政治の場」

「社会慣習やしきたり」で男性優遇の意識が強い

- 「社会全体」における男女の地位については、男性の方が優遇されている*と感じている人が7割以上となっています。
- 社会の各分野では、「学校教育の場」では平等と感じている人の割合が5割を超えていますが、「職場」「政治の場」「社会慣習やしきたり」では、男性の方が優遇されている*と感じている人が6割以上となっており、不平等感が特に強くなっています。

※男性の方が優遇されている：

「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

全国に比べて「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に賛成している人*¹が多い

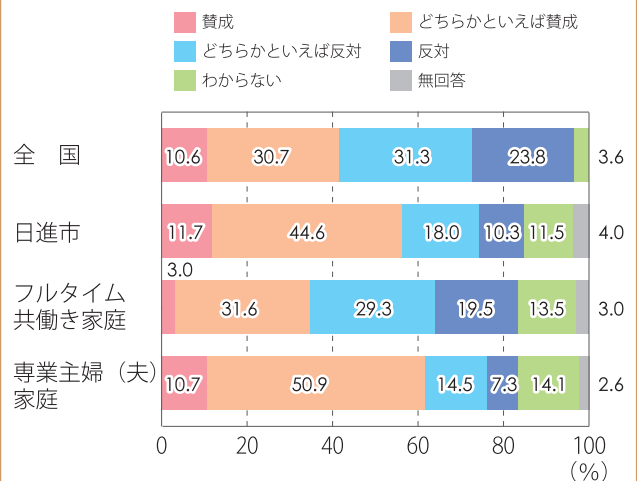
- 日進市では、この考え方に賛成している人*¹が5割を超えているのに対し、反対している人*²は、約3割となっています。
- 一方、全国調査*³では、この考え方に反対している人*²が、5割を超えており、日進市では、「男は仕事、女は家庭」という固定的役割分担意識が根強く残っていることがうかがえます。
- 働き方別で見ると、「フルタイム共働き家庭」では、この考え方に反対している人*²の割合が高く、約5割となっています。一方、「専業主婦（夫）家庭」では、この考え方に賛成している人*¹の割合が高く、約6割となっています。

※1 賛成している人：「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計

※2 反対している人：「反対」「どちらかといえば反対」の合計

※3 全国調査：男女共同参画社会に関する世論調査

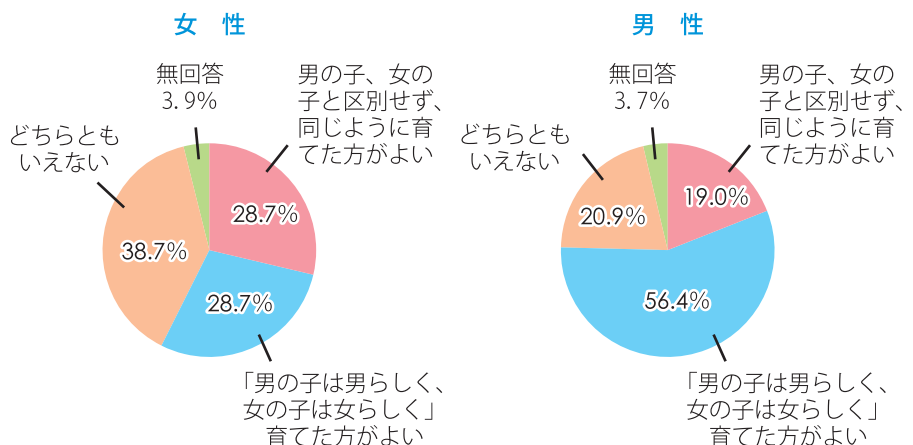
(平成21年10月)



子どもの育て方について

男性で、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という意識が強い

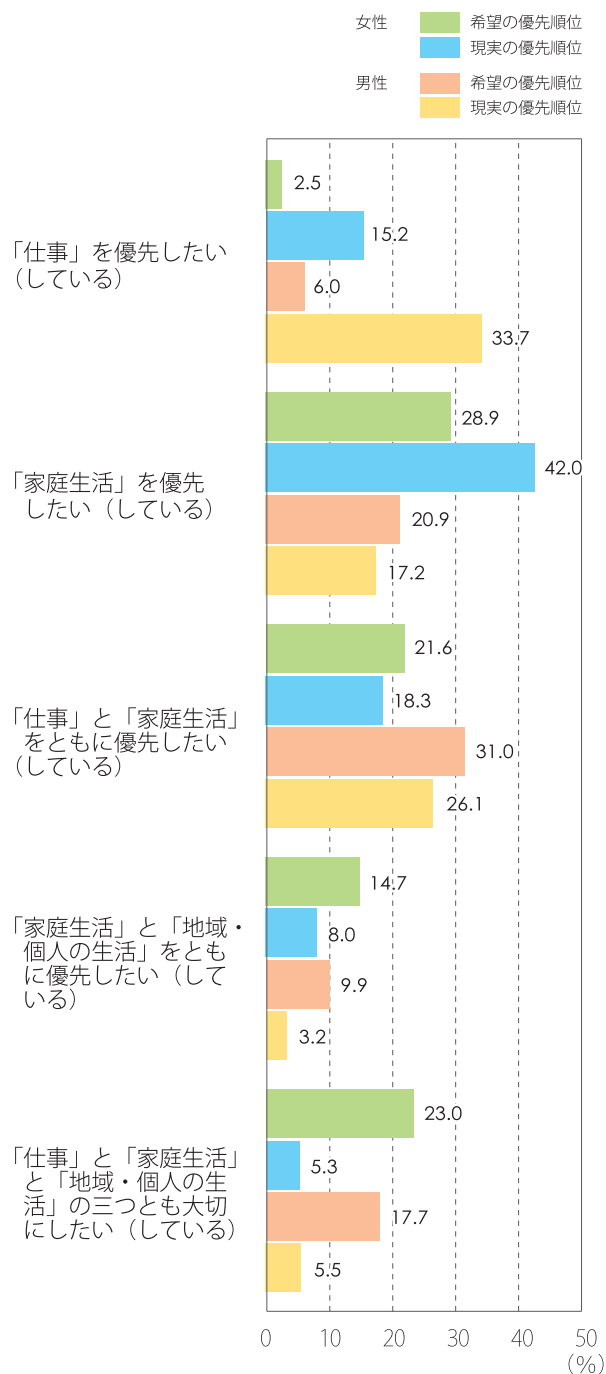
- 男性では、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」と考える人が、女性に比べ2割以上高くなっており、5割を超えています。
- 女性では、「どちらともいえない」の割合が約4割と、男性に比べ2割以上高くなっており、判断が難しいと感じている人が多いと推測されます。



仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス※) について

「仕事を優先」の項目で、希望と現実で大きな差が生じている

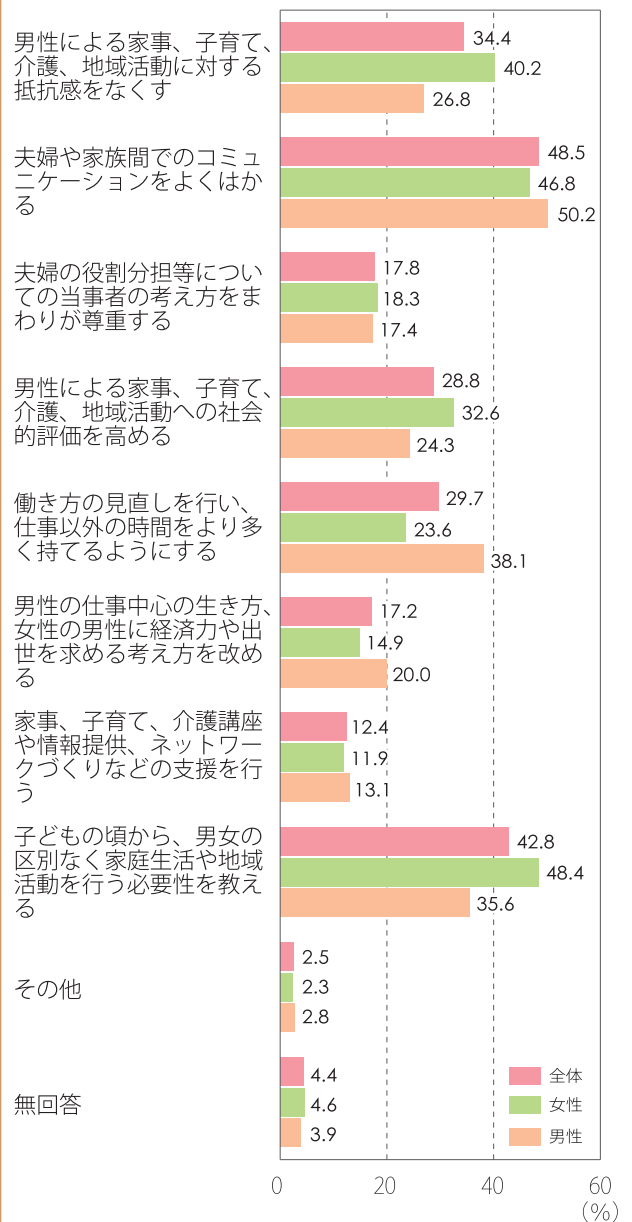
- 生活の中における希望の優順位では、女性で、『「家庭生活」を優先したい』が、男性では、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』が最も多く、約3割となっています。
- しかし、現実の優先順位では、女性で『「家庭生活」を優先している』が4割以上、男性で、『「仕事」を優先している』が3割以上となっており、特に男性で、仕事と仕事以外の生活との両立が難しい現状が見て取れます。



男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加方法について

「夫婦や家族間でコミュニケーションをよく図る」が全体の約5割と最も多い

- 女性では、「子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える」「男性による家事、子育て、介護、地域活動に対する抵抗感をなくす」という意見が男性に比べ多くなっており、子どもや男性への意識啓発の必要性を感じていることがうかがえます。
- 一方、男性では、女性に比べ「働き方の見直しを行い、仕事以外の時間をより多くもてるようにする」という意見が多くなっています。

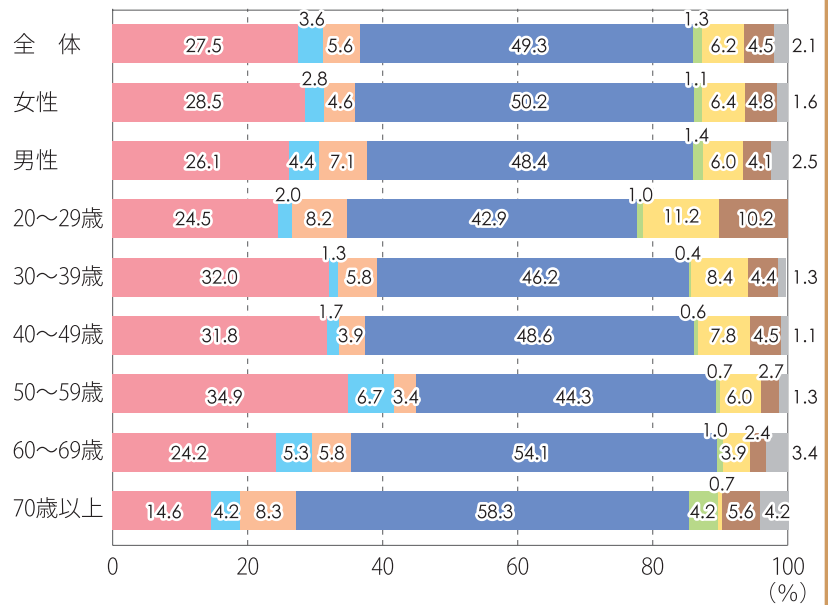
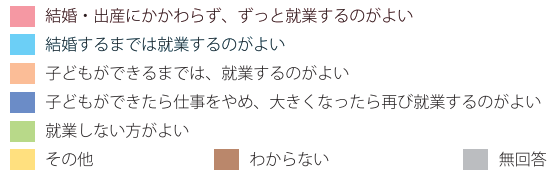


※仕事と生活の調和（ワークライフバランス）とは、仕事と、家庭生活、地域生活、自己啓発活動など、仕事以外の生活との調和を図るため、仕事中心の生活の見直しなどを行うことにより、その人が望む生活のバランスを取ることをいいます。

女性の就業について

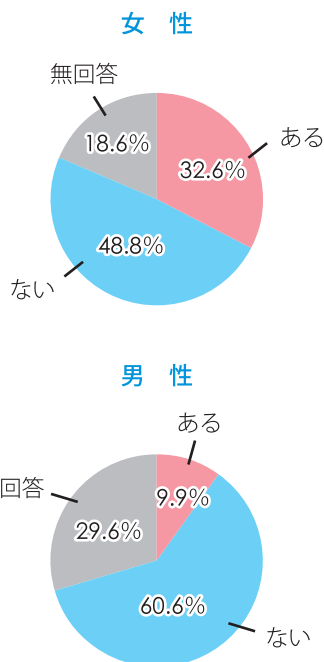
「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」と考える人が半数近くを占めている

- 女性が就業することについては、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」の割合が約5割、次いで「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」の割合が約3割となっています。
- 年代別でみると、30代～50代では「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」と考える人が3割を超えており、60代、70歳以上では「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」と考える人が5割を超えています。



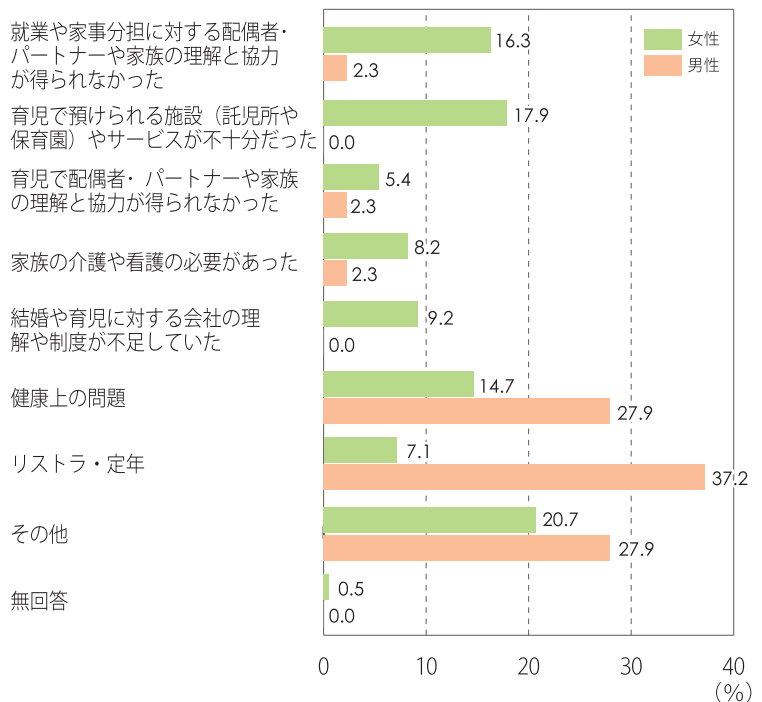
働き続けたいけれど、働き続けられなかった経験

- 働き続けたいけれど、働き続けることができなかった経験をたずねたところ、女性では、3割以上の人、男性では、約1割の人がその経験があると答えています。



働き続けることができなかった理由

- 男性では、「健康上の問題」「リストラ・定年」が主な理由となっています。
- 女性では、「健康上の問題」「就業や家事分担に対する配偶者・パートナーや家族の理解と協力が得られなかった」「育児で預けられる施設やサービスが不十分だった」など多岐にわたっており、仕事を続けるうえで、様々な問題に直面していることがわかります。

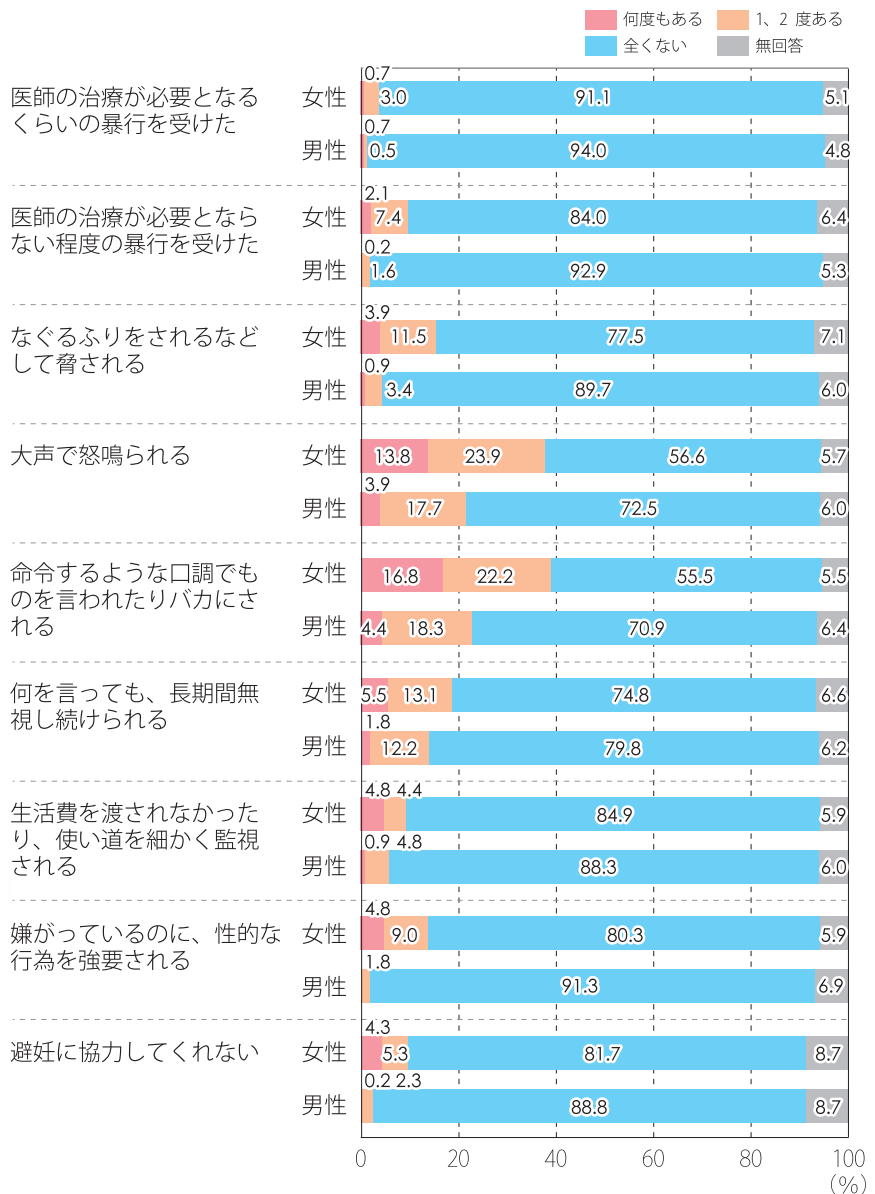
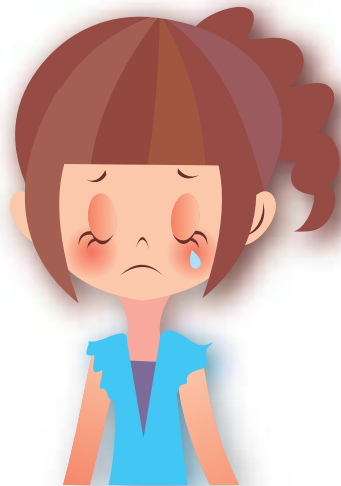


ドメスティック・バイオレンス（DV）※を受けた経験

配偶者や恋人からの暴力が身近で起きています

- 配偶者や恋人から暴力を受けた経験では、「大声で怒鳴られる」「命令するような口調でものを言われたりバカにされる」で男性では約2割、女性では約4割の人が経験がある*と答えています。
- 特に女性では、「医師の治療が必要となるくらいの暴行を受けた」以外の項目では、約1割～2割の人が、その経験がある*と答えており、多くの女性がDVの被害を受けています。

※経験がある：「何度もある」「1、2度ある」の合計



ドメスティック・バイオレンス（DV）※、セクシュアル・ハラスメント、性犯罪、買春などを防止するために必要なこと

- 「法律・制度の面で見直しを行う」が最も高く、51.7%となっています。次いで、「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」（47.7%）「犯罪の取締りを強化する」（43.6%）「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届出をしやすいようにする」（41.4%）となっており、被害者のための環境整備の要望が高くなっています。

※ドメスティック・バイオレンス（DV）とは、夫婦や恋人、元恋人など、親密な関係にある男女間の暴力のことをいい、殴る、蹴るなどの身体的暴力以外にも、暴言を吐く、行動を制限するというような精神的暴力、性行為の強要などの性的暴力も含まれます。

男女平等な社会を推進していくために、今後行政が力を入れていくべきこと

子育て、介護に関するサービスへの要望が高い

- 今後行政が力を入れるべき施策については、「子育て、介護に関するサービスを充実する」が最も高く、5割を超えています。
- また、「女性の再就職支援など、女性の就労拡大を図る」「労働時間の短縮など、男女が多様な生き方を選択できる環境を整備する」についても、約4割となっており、要望が高くなっています。女性の能力を活用するとともに、働き方の見直しを進め、男女ともに、仕事と生活の調和（ワークライフバランス）が取れるような環境づくりを進めていく必要があります。

法律・制度の面で見直しを行う

政策決定の場に、女性を積極的に登用する

行政や企業などの重要なポストに一定の割合で女性を登用する制度の導入を図る

職場における男女の均等な取扱いを行うよう企業等に働きかける

労働時間の短縮など、男女がともに多様な生き方を選択できる環境を整備する

リーダーとなる女性の人材を育成する

女性の再就職支援など、女性の就労拡大を図る

子育て、介護に関するサービスを充実する

学校や生涯学習などの場での関連学習を充実する

男女の様々な活動を支援したり、相談することができる拠点を整備する

広報誌やパンフレットなどで、広く啓発を行う

心と身体の健康管理支援や母性の保護、母子保健の充実を図る

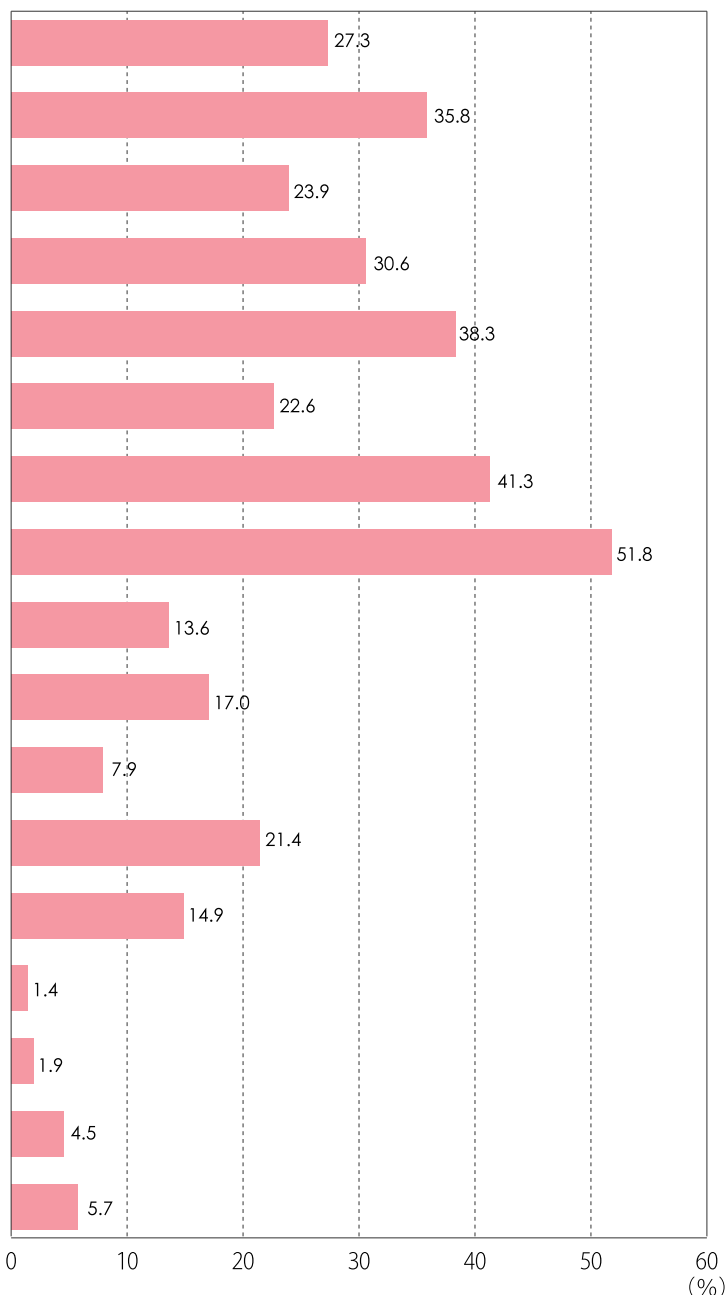
各国の男女平等に関する取組みなどの情報提供や、国際理解を推進する

その他

特にない

わからない

無回答



ご意見・ご感想をお寄せ下さい。

日進市の男女平等に関する市民意識調査結果 <ダイジェスト版>
発行：平成22年3月

日進市役所 市民協働課 男女平等推進係
〒470-0192 愛知県日進市蟹甲町池下268番地 / TEL 0561-73-3194 FAX 0561-72-4603
E-mail kyoudou@city.nisshin.lg.jp